

農園のメンテナンス～今年の栽培シーズンに備えて～

年1回のコーヒー豆の収穫期を無事に終え、今度は来シーズンに向けた、メンテナンス(管理)がはじまります。木の手入れや農園の管理は、収穫を終えてからすぐにはじまります。今月は、農園管理の大切さやその方法、堆肥活用に関する農業技術研修を6つの村で実施しました。

ソラ省の村々では、ユニークなことに、生産地域ごとにコーヒーの手入れ方法や農園の維持・管理の方法が微妙に異なります。そのため、研修ではまず、研修参加者同士がお互いに自分のやり方を紹介したり、地域や農園の課題に関しても共有しました。今回の研修のメインピックは、日光を遮る枝や枯れた枝などの剪定方法とコンポスト(堆肥)を活用した土づくりの方法を紹介した他、実際の農園において、その活用方法を実践しました。研修に参加した生産農家の皆さんからは、

「こうしたやり方は聞いたことがありましたが、面倒で、時間や費用がかかるとあって、これまであまり実践してきませんでした。今回の研修に参加して、農園のメンテナンスの大切さが今まで以上によくわかったので、これからは、積極的に実践していきたい」という声が多くなりました。FIDRはこれからも、それぞれの生産地域や農家に合った農法・生活改善の実践をサポートしていきます。



土づくりのやり方を共有した農家さん

コーヒーチェリーの皮も再利用できます！

今回の研修で使用した堆肥資材は、カスカラ(乾燥させたコーヒーチェリーの果皮で、コーヒーの実が熟すとさくらんぼに似ていることからコーヒーチェリーと呼ばれます)から作られたコンポスト(堆肥)で、畑の肥料として利用されています。コーヒーチェリーの殻はコーヒー生産農家にとって身近なものです。それを発酵・完熟したものを有機肥料としても活用できることを知らない生産農家さんも多くいました。

栄養成分が多く、良い肥やしになると聞いた農家さんはコーヒーの畑だけでなく、他の果実の畑にも使いたいと話しました。皆さんの土の質が改善されるといいですね！



*AGF「コーヒー大事典」より

コーヒーの実の中に種(コーヒー豆)が入っています



農園でコンポストを実際に使ってみました